

## 第 12 回全国和牛能力共進会・鹿児島大会

令和 4 年 10 月 6 日から 10 日にかけて、鹿児島県（種牛の部は霧島市、肉牛の部は南九州市）にて開催されました。全国 41 道府県から合計 438 頭（種牛 248 頭、肉牛 166 頭、特別区 24 頭）が出品されました。

滋賀県からは、種牛の部（特別区）に県立長浜農業高等学校の「いぶき 77 の 21（通称：うめみづき）」が、肉牛の部（第 8 区）に近江八幡市の亀井利次さんの「百合福姫」と高井和紀さんの「翔也」が出品されました。

### 【特別区】

県立長浜農業高校では、月に 1 度は O B の農家さんや畜産技術振興センターの職員と高校生と一緒に牛の発育状況や栄養度の確認を行い、牛の視点に立った日々の管理について検討を重ねてきました。具体的には、牛を暴れさせないように引くにはどうすればいいか、怖がらずに体重計に乗せるにはどうすればいいか、みんなで意見を出し合いながらトレーニングを行ってきました。うめみづきが代表牛に選ばれた 7 月 14 日以降は特に調教を頑張ってきました。なかなか言うことを聞かなかったうめみづきも、外部講師に教えてもらった調教のコツを毎日繰り返して行った結果、コミュニケーションをとれるようになり、人のペースに合わせて歩けるようになりました。また、毎日のブラッシングや調教後のシャンプーを通して絆を深め、体のどこを触っても嫌がらず、体測時もおとなしく立ってられるようになりました。

9 月 9 日には三日月知事が高校を訪れ、

「残り 1 か月もないが、真心込めて育ててきた牛を、しっかり評価してもらえるように頑張ってください」と激励されました。



長浜農業高校の生徒と三日月大造知事

うめみづきは 10 月 4 日に鹿児島へ出発し、丸一日トラックに揺られながら翌日朝に会場に到着しました。移動のストレスからか午前中は食欲がなく、体重は 40kg も減っていました。その後すぐに個体確認（鼻紋の採取）、午後からは体測や発表のリハーサルとハードなスケジュールをこなしたうめみづきは、6 日午後からの審査本番に向けて、調教の確認やシャンプーを行いました。高校生は、他県の出品者の方から見た目がカッコよく見えるような毛刈りの方法を教えてもらっていました。

いよいよやってきた審査本番では、出品牛 24 頭の中で最年長のうめみづきは最後の出番でした。調教の成果があったのか、本番中はもちろん、他の高校の発表中もしっかり落ち着いて立っていました。結果はみごと「優等賞 16 席」という好成績でした。また、審査競技会では、同校 3 年生の山崎歩莉さんが初出場で上位 4 名に入る優秀賞を受賞し、素晴らしい結果を残されました。



審査後の高校生とうめみづき

#### 【第8区】

10月3日にJAグリーン近江大中の湖支店において百合福姫と翔也の出発式が行われました。出発式には近隣の肉牛農家さんや近江八幡市長など、たくさんの方にご参加いただき、出品者の亀井さんと高井さんに激励の言葉をかけられていました。みんなに「がんばれー！」と声をかけられながら出発した2頭は、翌日無事に鹿児島に到着しました。

10月8日に格付けが行われた結果、百合福姫はA5-11、翔也はA5-12でした。亀井さんと高井さんにお気持ちを伺うと、「県内審査が終わってから今日まで、本当に夜も眠れない日々が続いた。」「滋賀県代表牛としてのプレッシャーと戦ってきたが、今日の結果を見てひとまず安心できた。」と少し緊張がほぐれた様子でした。

翌日は等級決定とセリが行われました。結果は、亀井さんの百合福姫が優等賞11席（滋賀県過去最高位）、高井さんの翔也が優等賞22席という素晴らしい結果となりました。滋賀県の出品牛2頭ともが優等賞を受賞するのは初めてのことでした。毎日真剣に牛と向き合い、愛情込めて世話をされてきた結果が形となって現れたのだと思います。また、この肥育去勢牛の出品区に連続3回出品された株式会社 田井中牧場さ

んが全共功労者表彰を受けられました。授賞式には田井中亮太さんが出席され、「この賞をいただいたのは両親が畜産に貢献してきたおかげだ。今後は自分が美味しい牛を作っていきたい。」とおっしゃっていました。



セリに向かう高井さんと亀井さん

#### 【PRブース】

今回の共進会では種牛の部会場に各都道府県や企業などが出店する「PRブース」が設置されました。滋賀県は、都道府県ブースに出店して、SNSで「#近江牛」を付けて発信して下さった来場者の方に近江牛トートバッグをプレゼントするPR活動を行いました。また、前回の宮城全共と同じく「銘柄牛ブース」にも出店し、来場者の方に近江牛の試食を提供しました。

どちらのブースも予想以上に人が集まり、トートバッグは4日間で1,500枚配布完了し、近江牛の試食は計6回1,200食分の整理券がすぐに配布完了するなど、大盛況でした。SNSでは「近江牛が一番おいしかった」など嬉しい声がたくさん見られ、改めて近江牛のすごさを感じました。

次回の全国和牛能力共進会は5年後に北海道で行われます。今回の経験を生かして、次回も生産者さんと関係団体の皆さん、県とが一丸となって盛り上げていきたいと思いました。 (田中・西村)